

名張市の江戸川乱歩関連事業について

先日来、ご多用のところお手数をおかけして恐縮しております。名張市の江戸川乱歩関連事業について、以下に私見を申し述べます。

乱歩関連事業の概観

名張市の乱歩関連事業を概観して痛感させられるのは、一貫した方針が存在していないという一事です。自治体としての施策に乱歩をどう位置づけ、どう扱ってゆくのか、そういったことが何も示されていません。正直なところをいってしまえば、江戸川乱歩というビッグネームを利用して名張市の知名度をアップさせたい、名張をPRしたいというのが行政の思惑でしょう。それはそれで、けっして悪いことでも恥ずかしいことでもありません。問題なのは、そこに何の方針もなく、どんな戦略も存在していないということです。

要するに、名張市の乱歩関連事業はすべて場当たりの思いつきの産物でしかありません。じつに月並みで、名張だけの独自性など微塵もなく、どこにでも転がっているような事業の焼き直しにすぎません。しかし、それは当然のことだといえるべきでしょう。乱歩作品をまともに読んだことがなく、乱歩がどういう作家だったのか、現在どのように受容されているのかを知らずともしない人間が、行政職員の職務として乱歩関連事業を企画立案してみたところで、場当たりの思いつき以上のことができるはずはありません。

ですからいまの名張市には、これまでに実施してきた乱歩関連事業を検証してみることが必要なのかもしれません。1991年からつづけているミステリ講演会や2008年に発足させた乱歩都市交流会議がどんな成果をあげてきたのか、名張市のPRにどれほど貢献してきたのか、それを検証してみるのは無益なことではないと思われますし、かりに新たな乱歩関連事業を始めるにしても、そうした検証の結果を踏まえたうえで事業化することが望まれるはずです。もっとも私は、そういった事

業にはさしたる興味をおぼえないのですが。

収集資料とデータベース

つづいて、名張市立図書館について記します。私が市立図書館の嘱託を拝命したのは1995年のことでした。詳しい経緯は省きますが、乱歩に関して何をすればいいのかわからないと同館から相談を受けましたので、私に何らかの立場を与えてもらえれば市立図書館が何をすべきか示すことができると伝えましたところ、嘱託として雇用されることになりました。

市立図書館は何をすればいいのか。ごく簡単なことです。同館は1969年に開館しましたが、開館準備の段階から乱歩関連資料の収集をつづけてきました。その収集資料の活用を考えればいいだけの話です。乱歩関連資料を専門的に収集してきた唯一の図書館として、データベースを作成し、提供する。それが、乱歩に関して市立図書館が進めるべきサービスです。対象は名張市民には限定されません。乱歩に興味をもつすべての人が対象です。地域を限定しないサービスを広く提供することは、市立図書館のみならず名張市という自治体のPRにもつながるものと判断されます。

市立図書館が収集した資料だけでは有用なデータベースになりませんから、未所蔵資料の調査を進め、1997年に『乱歩文献データブック』、98年に『江戸川乱歩執筆年譜』、2003年に『江戸川乱歩著書目録』と三冊の目録を刊行しました。そのあいだにインターネットが急速に普及しましたので、乱歩のデータベースを市立図書館のサイトに掲載するべく二度にわたって予算を要求したのですが、財政難との理由で実現しませんでした。

紹介と評価

実際のところ、名張市は乱歩に関してどのような評価を受けているのか。次ページのスキャン画像二点をご覧ください。

時の作者の姿が浮かぶ作品です。その後も続けて作品を発表して上京。約20種類もの職を経た彼の最後の転職は、作家でした。

推理作家としての乱歩は、「市井俗人の弄びであった俳諧を至上の芸術、哲学とした」芭蕉に倣って、探偵小説本来の謎や論理と文学的価値とを融合した作品を書く「探偵小説の芭蕉たるものは誰ぞ」と訴えました（一人の芭蕉の問題、47年）。後に、「点と線」を書いた松本清張を「推理小説界の芭蕉」と称賛しています。

名張での乱歩顕彰は、55年に生家跡地に「幻影城」と刻まれた記念碑が有志の呼びかけにより建てられ、市立図書館には乱歩のコーナーが常設されています。また、インターネット上の資料館ともいえるウェブサイト「名張人外境」には年譜、資料集成など乱歩関連の実に詳細な情報が日々更新されています。これはサイト管理人、中相作氏の労作で、これからの資料館や作家顕彰のひとつの在り方といえるでしょう。

（福田和幸）

上 朝日新聞伊賀版（2009年11月23日発行）

「発見」したふるさと名張／江戸川乱歩 福田和幸 連載〈文学のみち伊賀〉第16回

左 志村有弘編『江戸川乱歩 徹底追跡』勉誠出版（2009年11月30日発行）

「乱歩の足跡——三重・名古屋・東京・大阪」中沢弥

さて、この場所にあった家については、乱歩手製の『貼雑年譜』に図が載せられている。もちろん乱歩自身の記憶していたものではなく、家族に聞くなどして描いたものだろう。それを見ると四畳半、六畳、二畳に流しのある一階と三畳、四畳の二階建てになっている。一応五部屋あるとは言っても、一つ一つの部屋が小さい。通りを越えたところに川があり「この辺で洗濯する」と、その場所が記されている。

生誕の碑の除幕式が昭和三十年にあったことは前述した通りだが、その二年前にも乱歩は名張を訪れている。それは恩人の息子である代議士の選挙応援というちよつと変わった用事のためであった。『わが夢と真実』の「ふるさと発見記」では、この時に生誕の地を尋ねたことが回想されている。とくに名張時代の乱歩の母親を知っているというお婆さんに会って話を聞いたことが印象的であったようだ。名張川の河原に出て、母親が毎日洗濯していたという場所が、当時とそれほど変わっていない様子だったことに感動している。一方、さすがに父親の同僚などは亡くなっていたようだ。また生誕の碑を作る話は、この名張訪問の時に持ち上がったものだという。

乱歩自身の記憶にある名張は、随分と後になって形成されたものであったことがわかる。したがって乱歩文学の原風景のようなものを期待して名張を訪れてもがっかりするだけであろう。とはいえ乱歩生誕の地への訪問は、全く無駄というわけではない。現在の名張市では、まずは名張市立図書館を訪ねてみるべきだろう。館内には、江戸川乱歩コーナーがあり、乱歩の原稿や遺品を見ることが出来る。本当に狭いコーナーではあるが、乱歩作品の一端に触れることができる。それに加えて図書館からは『乱歩文献データベース』『江戸川乱歩執筆年譜』『江戸川乱歩著書目録』が刊行され、充実した資料の発信地になっているということが重要だろう。

このように名張は、乱歩の生誕地としてさまざまな情報の発信地になっていることは確かである。だが、乱歩本人はというと、生まれた翌年に、役所の書記として働いていた父親の転勤で亀山に引っ越してしまう。したがって、乱歩の脳裏に名張での記憶が残っているわけではない。乱歩自身によれば、亀山の町の高台から眺めた、汽車が走る様子が最初の記憶だという。

朝日新聞の記事では、最後の段落で名張市の「乱歩顕彰」がとりあげられ、「市立図書館には乱歩のコーナーが常設されています。また、インターネット上の資料館、ともいえるウェブサイト『名張人外境』には年譜、資料集成など乱歩関連の実に詳細な情報が日々更新されています」と私が開設しているウェブサイトの紹介も記されているのですが、私のサイトのメインコンテンツは『乱歩文献データブック』『江戸川乱歩執筆年譜』『江戸川乱歩著書目録』にはかなりません。市立図書館のウェブサイトで公開されているべきものですが、名張市の財政難のせいで実現できませんでしたので、市立図書館の著作権を侵害して私のウェブサイトに掲載しております。

『江戸川乱歩 徹底追跡』では、「乱歩文学の原風景のようなものを期待して名張を訪れてもがっかりするだけ」、しかし、名張市立図書館には「江戸川乱歩コーナーがあり」「それに加えて図書館からは『乱歩文献データブック』『江戸川乱歩執筆年譜』『江戸川乱歩著書目録』が刊行され、充実した資料の発信地になっている」と名張市のことが紹介されています。「名張は、乱歩の生誕地としてさまざまな情報の発信地になっている」とも評されていますが、これは乱歩関連事業を念頭に置いた評言ではなく、あくまでも市立図書館が収集資料にもとづいて体系化し、公刊したデータベースに対する客観的な評価です。

名張市立図書館が乱歩のデータベースを作成し、提供するの当然の務めですし、それは乱歩のファンや研究者から望まれているところでもあります。そうした事業によって、朝日新聞の記事に準じていえば「これからの資料館や作家顕彰のひとつの在り方」を追求することも可能でしょう。そうした事業展開には、乱歩作品をまともに読んだことがなく、乱歩がどういう作家だったのか、現在どのように受容されているのかを知ろうとせず、図書館は無料貸本屋であるという認識しかないような人間は無理だとしても、ごくまともな見識をもっている人であれば一も二もなく賛意を表してもらえるはずです。

資料活用の方向性

しかし残念ながら、名張市にはこうした事業への理解がありません。乱歩作品をまともに読んだことがなく、乱歩がどういう作家だったのか、現在どのように受容されているのかを知ろうともしないような人間には、そもそも理解することが無理だったようです。私が図書館囑託として示した方向性は教育委員会によって否定されてしまい、否定の理由や教育委員会としての方針を質しても回答がありませんでしたので、私は2007年度で市立図書館と無縁の身になりました。日本でただひとつ乱歩関連資料を収集してきた同館の現況はどうか、市民の共有財産である乱歩関連資料はどのように活用されるのか、その点について名張市公式サイトの「市長への手紙」で確認してみましたところ、返ってきたのはこんな回答でした。

中 相作 さま

このたびは「市長への手紙」をお寄せいただき、ありがとうございます。

名張市立図書館が所蔵する江戸川乱歩関連資料を活用するための具体的な方針につきましては、現在のところございませんが、今後、図書館活動の一環として、江戸川乱歩に関連する図書や雑誌などの資料を、収集・保存に努めてまいりたいと考えています。

今後とも、貴重なご意見・ご提案をお寄せいただきますようお願いします。

平成20年10月 9日

名張市長 亀井利克

気は確かか、と思いました。この回答をどの部署の職員が執筆したのかはわかりませんが、活用する方針はないが資料の収集はつづける、などというたわごとが通用するはずはありません。活用しないのなら資料収集に税金をつかうべきではない、というのが一般的な市民感覚にもとづく判断でしょう。「充実した資料の発信地になっている」と評されることもある名張市立図書館には、じつは収集資料を活用する方針すら存在していない。悪い冗談にしか聞こえない話ですが、これが現実

です。乱歩作品をまともに読んだことがなく、乱歩がどういう作家だったのか、現在どのように受容されているのかを知らうともせず、図書館は無料貸本屋であるという認識しかないような人間が、責任回避や主体性放棄に明け暮れながら職務に携わっているのが名張市という自治体なのですから、まともなことは何も望めません。

お役所のみなさんへ

昨年12月28日にお話ししましたとおり、私が名張市役所のみなさんをお願いしたいのは、ものごとを勝手に決めてくれるなということです。ものごとというのは税金の具体的な使途のことなのですが、ものごとを決めるにはまず考えることが要求されます。考えるためには知識や見識を総動員し、さまざまな能力をフル稼働させて最善と思われる結論を模索することが要請されるわけですが、私の見るところ、名張市役所のみなさんはそういった作業が苦手でいらっしゃるようです。名張市の行政全般を眺めても、ものごとを勝手に決めてくれるなとお願いしたくなる事例は山ほどあるように見受けられるのですが、乱歩に関連した分野に限ってもまったく同様で、お願いですから勝手に決めないでくださいなと申しあげたくなることばかりが目につきます。

乱歩作品をまともに読んだことがなく、乱歩がどういう作家だったのか、現在どのように受容されているのかを知らうともせず、図書館は無料貸本屋であるという認識しかないような人間が、責任回避や主体性放棄に明け暮れながら適当なことばかり決めてきた。それが名張市の乱歩関連事業です。乱歩生誕地碑広場の整備事業がまさしくその一例です。いったいどここのうすらばかがあんなことを決めたのか、と私は思います。ほんとにもう、お役所あたりのうすらばかがめいっぱいおよろしくないおつむで適当なこと勝手に決めてんじゃねーぞこのすつとこどっこい、いっぺん泣かしたろかこら、と思われてなりません。ですから、お役所の中のみなさんが乱歩に関して何かを決めるとき、できれば私もその場に立ち会いたいと思うのですがいかがなものでしょうかと、先日もお

話しいたしましたが、それが私のお願いです。

決定に至るプロセス

私が開設しているブログに昨年12月14日、桐生市議会議員の庭山由紀さんがこんなコメントを投稿してくださいました。

お久しぶりです。いかがお過ごしですか？

私は今、議会中です。相変わらず、全ての議案が当局の提出どおりに可決されています。疑問に思っただけで調査をして問題提起をして討論しても、何も変わりません。今日は、ちょっと声を大きくして発言したりしましたが、議長権限の前にあえなく撃沈。

正直、議会中は脱力してしまうことが多々あります。

しばらく中さんの書き込みがないので、やはり脱力中かなと……。それとも、テロ準備中ですか？

私はこんなふうにお答えしました。

議員という立場にある庭山さんでさえ、「全ての議案が当局の提出どおりに可決されています。疑問に思っただけで調査をして問題提起をして討論しても、何も変わりません」とおっしゃるので、すから、ただの市民でしかない人間にはどうしようもないというわけです。こうなりますと、残る手はただひとつ、「当局」の内部に入ってしまうこと、それ以外には手はないでしょう。お役所の中の人々がものごとを決める現場に立ち会う。これしかないと思います。議会に提案された時点ですでに手遅れなわけですから、それ以前の段階に立ち会い、決定にいたるプロセスで働きかけを行うしかありません。

私はまさに「お役所の中の人々がものごとを決める現場に立ち会う」ことを希望しています。なにしろ名張市役所におきましては、乱歩作品をまともに読んだことがなく、乱歩がどういう作家だったのか、現在どのように受容されているのかを知

ろうともせず、図書館は無料貸本屋であるという認識しかないような人間が、責任回避や主体性放棄に明け暮れながら適当なことを勝手に決めてくれているわけなのですから、まともなことを決めていただくためにはその決定の場、というよりは決定に至るプロセスに立ち会ってこちらの意見を述べるしか手がありません。

判断するための場

昨年10月23日にもお話ししましたとおり、私は名張市に対してものすごく腹を立てており、はらわたがただ煮えくり返っている状態なのですが、怒っているだけではどうしようもありませんから、こうしてお願いをしているわけです。いつまでもノービジョン&ノープランではられません。そろそろ乱歩のことをまともに考えるべきときでしょう。ミステリ講演会や乱歩都市交流会議はまあどうでもいいのですが、市立図書館における乱歩関連資料の活用をどうするのか、そのあたりのことをちゃんと考えていただけないかと、そんなことをお願いをしているわけです。

とはいえ、乱歩作品をまともに読んだことがなく、乱歩がどういう作家だったのか、現在どのように受容されているのかを知ろうともせず、図書館は無料貸本屋であるという認識しかないような人間が、来る日も来る日も責任回避や主体性放棄に明け暮れているのが名張市という自治体なのですから、まともなことを考えていただくなるととても無理な相談だと思われます。だからこそ、その場に私を立ち会わせていただけないかとお願いしております。活用の方針はないが収集はつづける、などとたわけたことをおっしゃるのであれば、過去四十年にわたってつづけてきたことではありますが、乱歩関連資料の収集は即刻中止すべきでしょう。そんな無意味なことに市民の同意や納得が得られるはずはありません。

しかし、市立図書館が中心となって、「名張は、乱歩の生誕地としてさまざまな情報の発信地になっている」と評されるような方向性を目指すことは可能です。私はそれが望ましいと考えますし、「これからの資料館や作家顕彰のひとつの在り方

といえるでしょう」と評されるような事業を展開してゆくべきだとも思います。ですから、名張市は乱歩をどう位置づけ、どう扱ってゆくのか、そういったことを判断するための場を設定し、私をそこに立ち会わせていただけないものでしょうかとお願いしているわけです。

そろそろテロにすっか？

冒頭にも記しましたとおり、名張市には乱歩に関して何の方針も存在していません。乱歩記念館や乱歩文学館といった施設が必要なのか、名張市民は乱歩作品に親しむべきなのか、そういった点に関する見解すら示されておられません。いくらなんでもそれではまずかろうと私には思われますので、先日来ご多用を顧みず身勝手なお願いをしているわけなのですが、私は何も具体的な事業の予算化を要求しているわけではありません。むしろすべての乱歩関連事業を白紙に戻すべきだというのが私の考えであり、つまりは乱歩作品をまともに読んだことがなく、乱歩がどういう作家だったのか、現在どのように受容されているのか、以下略しますが、そういった状態でいらっしゃる名張市役所のみなさんに、私のような有能な市民の考えに耳を傾けるつもりがおありなのかどうか、その一点をお訊きしております。

耳を傾けていただけるのであれば私にとってこれ以上の幸福はなく、名張市を「さまざまな情報の発信地」とし、「これからの資料館や作家顕彰のひとつの在り方」を示すことに微力を尽くしたいと思います。これはじつに簡単なことで、市立図書館の嘱託を務めていた当時にプランニングしていたことをあらためて実践するだけの話です。もしも耳を傾けていただけないのであれば、もとより望むところではないのですが、いたしかたはありません。さ、そろそろテロにすっか？ ということになります。

よろしくご検討いただきますようお願い申し上げます。

2010年1月8日

中 相作